

第1回愛知県歯科・皮膚科連携 ワークショップ実施報告書

日時：2/3(日) 13:00-16:00

場所：愛知県歯科医師会館

歯〜とびあホール

目次

・はじめに	1
・タスクフォース・スタッフ一覧	2
・受講者一覧	3
・ワークショップの概要.....	4
・プログラム	5
・歯科医と皮膚科医のグループディスカッションまとめ	6
・ワークショップの様子	20

【別紙】

- ・ワークショップ 参加者アンケート結果：歯科医師対象
- ・ワークショップ 参加者アンケート結果：皮膚科医対象

はじめに

愛知県名古屋市において、2019年2月3日に第1回歯科と皮膚科の連携ワークショップを開催しました。ワークショップは、愛知県歯科医師会 内堀典保会長と11名の学術部員の先生、愛知県皮膚科医会 高間弘道会長の絶大なるご後援・ご協力によって開催することができました。

本ワークショップは患者さんが必要とする歯科あるいは皮膚科の医療の質の向上のため、歯科医師と皮膚科医師が直接会い、お互いの医療を理解し疑問点を話し合い解決することを目指しました。今後、愛知県内で、また、県外においても、同様のワークショップを開催する教育研究の立場で、藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学 松永佳世子が企画させていただきました。

当日は、愛知県歯科医師会員 39名、愛知県皮膚科医 18名、合計57名の参加者があり、第1部は歯科・皮膚科連携のための基本的な知識の講演、第2部は歯科医と皮膚科医のグループディカッションが行われ、第3部として全体討論で質疑応答が行われました。非常に活発なワークショップができました。

タスクフォースをお引き受けいただけました、愛知学院歯学部 服部正巳教授、瀧井 泉美講師、藤田医科大学医学部 伊藤明子客員教授、鈴木加余子准教授に深謝いたします。

本日、遅くなりましたが、報告書を作成しました。ご参加いただきました皆様にお送りいたします。そして、今後、同様の教育ワークショップを企画される場合に、参考にいただければ幸いです。

2019年8月吉日

〒454-8509 名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号

藤田医科大学 医学部 アレルギー疾患対策医療学 教授 松永佳世子

TEL:052-323-5772

FAX: 052-323-6413

E-mail: kamatsu@fujita-hu.ac.jp

タスクフォース・スタッフ一覧

ディレクター	松永 佳世子	藤田医科大学医学部 アレルギー疾患対策医療学
--------	--------	------------------------

愛知県歯科医師会会長	内堀 典保	内堀歯科
愛知県皮膚科医会会長	高間 弘道	タカマ皮膚科

タスクフォース	服部 正巳	愛知学院大学歯学部 在宅歯科医療学寄附講座
	松永 佳世子	藤田医科大学医学部 アレルギー疾患対策医療学
	瀧井 泉美	愛知学院大学歯学部 高齢者歯科学講座
	伊藤 明子	ながたクリニック 皮膚科
	鈴木 加余子	藤田医科大学医学部 総合アレルギー科

愛知県歯科医師会 学術部員	渡邊 俊之	渡辺歯科医院
	加藤 正美	さかうえ歯科医院
	静岡 祐一郎	静岡歯科医院
	近藤 康史	近藤歯科医院
	宮野 貴彦	医) 宮野歯科
	今村 恭也	今村歯科医院
	安江 一紀	安江歯科医院
	伊藤 範明	i DENTAL CLINIC
	青木 恒宏	あおきデンタル クリニック
	長縄 敬弘	医療法人PBC 東山デンタルクリニック
三輪 和弘	MK 歯科クリニック	

スタッフ	久野 千枝	藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学
	枝松 栄子	藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学

【ワークショップの概要】

■日時：2019年2月3日（日） 13:00～16:00

■場所：愛知県歯科医師会館 歯～とぴあホール

■主催：藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学
教授 松永佳世子

■後援：愛知県歯科医師会・愛知県皮膚科医会

■目的：「歯科と皮膚科が関連する医療の質を向上させる」ことを一般目標として、

- 1) 連携すべき必須事項を学ぶ
- 2) 紹介すべき医師・歯科医師が直接会い、意見交換し、顔の見える関係を構築する
- 3) 紹介状、返書のミニマムを理解し連携に必要な内容を書く
- 4) お互いの医療の基本を知る
を目的とする

■受講者：愛知県内の歯科医師50名（うち、オブザーバー1名）
愛知県内の皮膚科医師 18名 合計68名

■ディレクター：松永 佳世子 藤田医科大学医学部 アレルギー疾患対策医療学

■タスクフォース（司会/座長・講演）：

服部 正巳	愛知学院大学歯学部	在宅歯科医療学寄附講座
松永 佳世子	藤田医科大学医学部	アレルギー疾患対策医療学
瀧井 泉美	愛知学院大学歯学部	高齢者歯科学講座
伊藤 明子	ながたクリニック	皮膚科
鈴木 加余子	藤田医科大学医学部	総合アレルギー科



服部正巳先生・松永佳世子先生



伊藤明子先生・鈴木加余子先生・瀧井泉美先生

===== 【プログラム】 =====

12:30 受付開始

13:00 開会挨拶 愛知県歯科医師会 会長 内堀典保先生

13:05 第1部 歯科・皮膚科連携のために必要な知識講義

1) これだけは知っておきたい歯科の知識

瀧井泉美先生（愛知学院大学歯学部 高齢者歯科学講座講師 同附属病院口腔金属アレルギー外来 科長）

座長：服部正巳先生

（愛知学院大学歯学部 宅歯科医療学 附講座客員教授）

2) これだけは知っておきたい皮膚科の知識

鈴木加余子先生（藤田医科大学 ばんだね病院総合アレルギー科 准教授）

座長：松永佳世子先生（藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学 教授）

3) 歯科と皮膚科の連携の現状と問題点

伊藤明子先生（藤田医科大学 アレルギー疾患対策医療学 客員教授・ながたクリニック副院長）

座長：松永佳世子先生（藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学 教授）

14:35 休憩

14:50 第2部 歯科医と皮膚科医のグループディスカッション

（1グループ6名ほどで、歯科・皮膚科の先生混合で地域ごとに分けてグループを作ります。）

お互いに困っていること、知りたいこと、こうして欲しいことを話し合います

15:20 第3部 質疑応答

全体討論：全体で、各グループからでた質問に対して、タスクフォースが答えます

15:45 閉会挨拶 愛知県皮膚科医会 会長 高間弘道先生

集合写真撮影、修了証書授与と挨拶

16:00 閉会

歯科医と皮膚科医の グループディスカッション まとめ

歯科  皮膚科

すべては患者さんのために・・・

Aグループ

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

- ・皮膚科が愛知県内に400～500あるが、パッチテストをやっている所とない所があるので、頼む前に確認しなければならない。

➤ パッチテストについて:

- ・皮膚疾患がなければ自費診療になる。
- ・ラテックスのテストなど、専門的なものは藤田医科大学などへ依頼する。
- ・金属アレルギーのパッチテストが患者さんからの希望が多い。
- ・一般的には、国内製の試薬しかできない。

➤ 掌蹠膿疱症について:

- ・耳鼻科に送る場合と歯科に送る場合がある。
- ・掌蹠膿疱症と金属アレルギーとは別に考えるべき。
タバコも強く影響する。
- ・ステロイドは使いわけ。

Bグループ

➤ アレルギーについて:

- ・チョコレートとNiアレルギーについて認識していなかった。他にもどのような食物アレルギーがあるか調べてみたくなった。

➤ パッチテストについて:

- ・皮膚科開業医として歯科からの金属アレルギーの依頼は、年に3件程度である。自院ではパッチテストを行っていないので、大病院へ紹介している(350点)
- ・近隣皮膚科では、パッチテストを行っていないところが多い。

➤ 情報提供書/紹介状について:

- ・皮膚科への情報提供書(初診)のなかに、C,P,Pul,Perの現症を記載できるとよい。
- ・皮膚科の先生方からも口腔内の慢性疾患、Pの継続管理について、口頭、情報提供書等を用いて患者に周知していただきたい。
- ・初診時の既往歴記載欄に、ニキビ、歯周病を記載する患者は少ない。

Cグループ

➤ **歯科・皮膚科の連携について:**

- ・歯科と皮膚科で仲良くする
皮膚科 × 歯科

➤ **パッチテストについて:**

- ・パッチテストをしてみる→保険でできない。
- ・パッチテストも保険でカバーできた方がよい→1つ1つ電話して確認する。
- ・樹脂のテストをよくやっている皮膚科を紹介して欲しい。
樹脂が使えなくなると歯科治療ができないので。

Dグループ

● 困っていること

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

・歯科からパッチテストを行っている皮膚科がわからないので紹介してもパッチテストをしてもらえないことがある。

➤ 情報提供書/紹介状について:

・情報提供タイミングは、判定1週間後に必要か？ または 1か月後でもよいか？

・PPPのとき

・金属アレルギーの患者の金属除去以外に歯周病も診察していただきたい時の情報提供書の(理解していただけるような)記入方法。

Eグループ

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

- 【歯科→医科】
 - ・実際にどこに、どのように紹介したらよいかわからない。
 - ・名市大、名大など機関病院に紹介してしまう。個人の皮膚科の先生に紹介する事がない。
 - ・扁桃腺除去が効果があることを初めて知った。
- 【医科→歯科】
 - ・患者さん個人でアレルギーを調べにくる人もいる。
 - ・口腔内の状況が悪い人にアレルギーが多いように思う。
 - ・掌蹠膿疱症の患者さんに関しては、ほぼ必ず歯科に送る。
 - ・扁桃腺除去には、慎重。特に耳鼻科医は。

➤ パッチテストについて:

- ・パッチテストの金属の種類によっては、自費になるものもある。期限切れが早いものもある。
- ・真夏はできない。秋から冬にかけてなら可能。
- ・パッチテストの流れなどの患者さん用のパンフレットなどを作る事で広く知ってもらう事が必要。→意外にパッチテストは大変であるという事を知ってもらわないと誤解が生じる。

Fグループ

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

● 地区での連携をどうとるか

① 患者さんが行き来できるか→地区での連携がとれない

・ 歯科 CAD/CAM導入

② 皮膚科でPTできるか

・ 調べて地区の皮膚科を探した

→ 皮膚科D ・ 経済的、メンタル面で負担が多い

・ 判定が困難 責任を持ってない(Second opinionが要る)

→ 個人でなく機関病院が重要。

・ 歯科も点数が少ない。

③ PPPの患者さん: 無歯顎になったらその後どうなるのか。治癒するのか。

歯性病巣がなくなるため。

開業の皮膚科Drへ依頼しても
判断が難しい。
金属除去について責任が持てない。



大学レベルの紹介が必要?
パッチテストをきちんとできる機関
医療施設が必要ではないか。

➤ パッチテストについて:

・ 試料の持ち込みをしてもらえるか。

・ 患者さんは、すぐ終わると思っている。PT通院回数が多く大変。7月-8月はできない。風呂はダメ。
国内で入手できる試薬はまだしも海外から輸入のものは使用が難しい。患者の指導も必要。

● レジン系について

・ 歯科より試料(物質)を持ってきてもらう事があった。

・ PTで起こった事例について責任とれるか。

Gグループ

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

- ・名東区で皮膚科の開業医の先生へアンケートをしたが、やってくれるところはなかった。
- ・実際、パッチテストをやっている。金属冠を外して欲しいときに、どこに紹介していいかわからないので、どうしても大学へ紹介してしまう。
- ・金属をはずす、リスクがどうしてもある。
- ・既成冠が保険適用(永久歯)になったが大丈夫か？
- ・どの病院でやってくれるかわからない。

➤ パッチテストについて:

- ・開業医でパッチテストはなかなかやらない。
- ・昔は金属と〇〇がメインだった。
- ・名東区で皮膚科の開業医の先生へアンケートをしたが、やってくれるところはなかった。
- ・実際、パッチテストをやっている。金属冠を外して欲しいときに、どこに紹介していいかわからないので、どうしても大学へ紹介してしまう。
- ・既成冠が保険適用(永久歯)になったが大丈夫か？
- ・名市大でトリイ以外にTiもやっている。月水金月と通院。夏は避ける。麻酔のアレルギーも調べられる。
- ・どの病院でやってくれるかわからない

Hグループ

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

皮膚科→歯科

- ・休薬－再開のタイミングなど。
（歯科医師会としては、休薬しない方向で。）
- ・開業医 地域差があり困る。

歯科→医科

- ・金属アレルギー検査など
地区に1医院でも連携できると助かる。

医科→歯科

- ・紹介する時にどのような治療を行ったか詳しく知らせて欲しい。

➤ パッチテストについて:

8日間は必要。開始後2-3日は風呂もダメ。入院して行う場合もある。

グループ

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

● 紹介の仕方

歯科→皮膚科

- ・金属アレルギーについて
口唇のCD・・・楽器の金属
→何を検査してよいかわからないと皮膚科から連絡があった。
- ・金属パッチをやっていない皮膚科が多い。
- ・チタンのパッチテストを紹介されたが、持参のチタンを削ってパッチテストをした。
- ・皮膚科からパッチテストをしていなくて、金属が陽性とわかっていなくても、
歯科金属を除去してくるようと言われて受診するPtが多々いる。
- ・歯科金属の溶出についての議論
- ・根尖病巣が軽い場合→リスクを犯して積極的に治療をすすめるににくい。
→抜けば治るが、見て見ぬふりをしてしまう。
- ・パッチテストの実際・・・1Wに4回通院、テストできる皮膚科が限られている。
- ・開業歯科 → 病院 口腔外科 → 皮膚科

Jグループ

➤ 扁平苔癬・掌蹠膿疱症などの連携して治療する疾患について:

→ 歯科へ依頼があったとき、歯科のDrはどうみているか？

- ・ 大きいHPの歯科なら; X-P, 歯周病、根尖病巣すべてみている。
- ・ 開業医の先生なら→ PPPの知識のない先生も実際にいるため何をみてほしいか、紹介状に書いてほしい。

(そもそも歯周病とは? 2つあり、特に“根尖性”がPPPの原因になりやすいと教えてもらった。)

◎ 金属パッチテストの何が「+」なら、セラミック・樹脂が保険適用となるの？

→ 今のところ、どの金属でもよいとされていると教えていただきました。

☆ セラミックはよいが、つけるためには接着剤は必要なので必ずしも安全とは断言できない。

◎ 鳥居の試薬で歯科の先生が満足できる種類があるのか？

一般的にはよいが、より重度の人だと対応できない。

→ 歯科用のパッチの開発が望まれる。

Kグループ

➤ 情報提供書/紹介状について:

- 歯科より皮膚科への情報提供
 - ・歯周病の有無を追加した方がよい。

➤ 連携して治療する疾患について:

- 根尖病巣の治療は数か月ほどかかることがあり、医療者にとっても患者にとっても負担となる。
まずは、歯科医師に診察していただき、どこまで治療するかは患者との相談。

➤ 歯科・皮膚科の連携について:

- 金属アレルギーで紹介する際に、アレルギー外来などアレルギーに特化した医療機関があればそちらへ紹介しやすいが、そういったところがないと、どこへ紹介したらよいか悩むことがある。

Lグループ

➤ 連携して治療する疾患、歯科・皮膚科の連携について:

- ・口腔ケアの重要性
- ・樹脂のアレルギー人工材料をいれにくい生活習慣
- ・対応、診断方
金属除去すれば良いというものでもない
費用的
- ・細菌と金属イオン＋口腔粘膜損傷はリスク↑

➤ パッチテストについて:

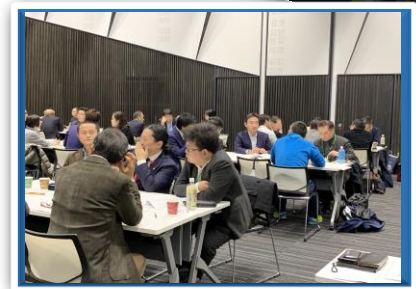
パッチテスト診断

- ・お風呂に入れない。夏は△。週4日通院する必要がある。
実際に4日間しらべられない患者も多い。
- ・パッチテスト入院できる医院:開業医のリストはない。→リストがあるといい。
- ・パッチテストの試薬が高いので、使用期間みじかい。
費用的においしくない。あまりやりたくないかも。

歯科医と皮膚科医のグループディスカッションのまとめ

グループディスカッション主な議論の内容

- 歯科と皮膚科の連携について：
 - ・患者さんが行き来できる近隣地区で連携できると助かる。
 - ・パッチテストを実施している施設が分からない。
(実施しているところとしていないところがある。)
 - パッチテスト実施医療施設リストがあるといい。
 - ・金属冠を外して欲しいときに、どこに紹介していいかわからない。
(大学病院へ紹介してしまう。)
- 情報提供書/紹介状について：
 - ・皮膚科への情報提供書(初診)のなかに、C,P,Pul,Perなどの現症を記載できるとよい。歯周病の有無を追加した方がよい。
 - ・紹介する時にどのような治療を行ったか詳しく知らせて欲しい。
 - ・何を診て欲しいか、書いて欲しい。
- 扁平苔癬、掌蹠膿疱症、金属アレルギー、根尖病巣などの連携して治療する疾患について：
 - ・金属の除去は、リスクがある。
 - ・根尖病巣が軽い場合、リスクを犯して積極的に治療をすすめるににくい。
 - ・皮膚科医からも、口腔内の慢性疾患、喫煙の影響などについて患者さんに周知してほしい。
- パッチテストについて：
 - ・実施スケジュールや費用など、医師も患者さんも負担がかかる。
→誤解が生じるといけないので、パッチテストの流れなどの患者さん用パンフレットなどを作る事で広く知ってもらう事が必要。
 - ・開業医の場合、試薬の入手の問題などもあり、実施が難しい。



ワークショップの様子

【開会挨拶】



【グループディスカッション】



【質疑応答】



【講義】



【集合写真】

